

# COPD(シーオーピーディー)とは何だろうか？

## はじめに

歳を取ると少しの動作でもすぐ息切れをするようになります。また熱もなく風邪をひいたようでもないのに、よく咳や痰がでやすいものです。こんな時に簡単に「歳のせい」と片付けていませんか。

確かに歳をとると身体機能は衰えます。特に肺の働きと腎臓の働きは、80歳を過ぎると30歳の頃の働きに比べて半分以下になるともいわれています。しかし、当然かもしれないませんがゆっくり発症している重大な病気のこともありますので、注意が必要です。

## COPD(シーオーピーディー)とは？

今回取り上げる「慢性閉塞性肺疾患」(COPD)の日本語の名称で、新聞や雑誌にもよく記載されています(とは、今まで「慢性気管支炎」だとか「肺気腫」と呼ばれて

いたものをまとめた考え方で、しかも治療できる病気であるとされています。

日本国内で約530万人のCOPDの潜在患者がいるのではないかといわれていますが、実際に診断されている患者は20万人程度だという成績もあります。それは、この病気が慢性にゆっくり経過しますので、歳のせいだろうと思っただけで診断を受けなかったり治療しないではっておき、悪くなって初めて発見されるため、重症化している人が多いのです。長年の喫煙歴があり、咳・痰・呼吸困難がある場合は強くCOPDを疑って検査を受けてください。また、気管支喘息との鑑別も大事な問題です。

## 喫煙が最大の原因！

喫煙歴があれば、性差はなく女性にも同じように起こります。現在は男性の喫煙率が高いので男

性が多いとされていますが、最近の若い女性の喫煙を見ていると心配でなりません。米国ではCOPDによる死亡率は女性の方が高いという成績もあるようです。健康な気管支では空気の流れがスムーズに行われますが、喫煙などで有害物質にさらされると、慢性的な炎症がおこり気管支の壁が厚くなり空気の流れを悪くしますし、粘液分泌も増えて咳や痰が多くなります。また、細菌・ウイルスなども侵入しやすくなり感染症を起こしやすくなります。高血圧や心臓病などが合併していると、その予後も悪い傾向がありますので注意しましょう。

## 診断

診断は、「呼吸機能検査」で「1秒率」(1秒間に吐き出す呼気量を全体の肺活量で割った割合)が70%未満であれば閉塞性障害と判定されます。予測される1秒率に対する測定値の割合で、軽症・中等症・重症・最重症というように分類されます。

## 治療法

治療は、先ず禁煙です。呼吸困難を軽くするには気管支を拡張して呼吸を楽にする気管支拡張薬やステロイド薬が用いられますし、タンを出しやすいうようにする去痰剤も用います。場合によっては酸素吸入などを受けます。肺炎やインフルエンザになりやすく、重大な結果を招きますので必ずワクチン接種を受けるようにしましょう。

最後に、呼吸リハビリテーションの重要性が叫ばれています。これは慢性呼吸器疾患患者の日常生活を助けるための医療チーム(呼吸理学療法・運動療法・栄養療法・患者教育など)による「包括的呼吸リハビリ」といわれています。これによって日常生活の質の向上をはかるように努力されています。

鹿児島シルバー110番  
医療専門相談員 医師 新村 健